2025年度
活動報告書

認定NPO法人 Future Code



人道支援なくして平和は実現しない

Haiti

2025 年 4 月



政情不安の続くハイチで、2 か所の孤児院に 3 ヶ月分の食糧支援を継続実施しました。
トラックに積み込まれた食糧を、子どもたちにも手伝ってもらいながら施設に運び込みます。
何年にもわたって街の治安悪化の改善が見込めない中、さらに最近では国際社会の混乱もあり、そして治安維持や国際支援も凍結され、特に子どもたちにとっては生きるだけでも厳しすぎる状況が続いています。



今回も日本からのこの継続する支援に感謝が述べられました。私たちだけでの支援は限られたものではありますが、しかしながら、可能な限り継続していきたいと思います。

2026 年 1 月

ハイチの孤児院に、再び食糧支援を実施しました。
これは困難な状況下で生きる、約 30 名の子どもたちの約 3 か月分の食糧となります。
近年ハイチでは、深刻な治安の悪化に歯止めがかからず、食糧の入手すらも難しい状況にあります。昨年まで、私たちも 2 か所の孤児院の食糧を支援して参りました。
しかし残念ながら、そのうちの 1 か所の孤児院は昨年末、ギャングの襲撃により解散、消滅しました。このような事は他の地域でも多発しており、他国からの支援の多くも停止され、ハイチで生きる事自体も困難となっています。
私たちとしては、この厳しい状況であるからこそ、子どもたちへの支援が可能な限り、続けていきたいと思います。





2026 年 2 月

ハイチの首都の中にある、国内避難民キャンプで、72 名の子どもを持つ家族を中心として食糧支援を行いました。
ハイチでは治安の悪化が著しく、ギャングとの抗争が絶えず、首都のほとんどの地域、85%がギャングの支配下にあり、首都のわずか 10%少ししか政府の管理下にない状況にあります。国内からの避難民が増え続けており、子どもたちの多くが飢餓の状態にあります。残念ながら、支援自体が困難でもあるため、多くの国際支援は撤退しています。今回はこのような危機的状況であるため、1 ヶ月分ほどの食糧にとどまりますが、支援を実行しました。
世界の不条理の中で、ただ生まれた子どもたちにとって、少しでも、わずかでも希望が持てる「私たち日本はハイチを忘れてはいない」という一つのメッセージとなればと思います。



Bangladesh

2025 年 4 月



バングラデシュの首都郊外に開設した診療所では、連日多くの患者さんが訪れています。多くの来院理由は、何らかの感染症による発熱や下痢などですが、入院設備もあるため、妊婦さんの検診や出産や、時折は交通事故による一次治療も行います。
首都から離れたこの地域では 72 の村がありますが、地域をカバーする唯一の医療機関として、

住民の方に無理のない低価格での診療、治療を提供するという大変大きな役割を担っております。



この診療の役割もしっかりとこなしつつ、また今後は地域の子どもたちへ重篤な感染症を予防する各種ワクチンの提供も行う予定です。
日本人の医療者と現地医療スタッフの連携を基盤に、私たちはこれからも確かな医療の提供に努めてまいりますので、日本の皆様には引き続き温かなご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます！

2025 年 5 月



バングラデシュにある山形ダッカ友好総合病院にて、山形ダッカ病院のラーマン医院長、小林看護師、そして日本大使館医務官の山本医師と共に、これからの私たちのビジョンなどの話も含めてのランチミーティングを行いました。
バングラデシュは急速な発展に伴い、様々な問題がある中ではありますが、この数年だけでも凄まじい速度で社会も変化しています。
この国の医療の未来について、これまで長きにわたり日本の看板を背負ってこられた先輩方のご尽力に敬意を払い、私たちはその精神を胸に、未来を担う世代へと、先輩方と共に繋いで行きたいと思います。
そして日本の支援を最大限に活かすべく、互いにコミュニケーションを深めつつ、強力に連携をはかっていきたいと思います。





バングラデシュ首都郊外の FutureCodeJapan（FCJ）診療所では、地域の住民の皆様に診療を低価格で行なっています。今回は日本から代表の大類も外来診療に参加しています。
この地域では全く医療施設がなく、私たちの他の診療施設まではかなりの距離があり、この街から車で 30 分ほど走らなければなりません。
私たちは徐々に検査機器も、本院ができるまでの一旦はこの施設で充実させていっており、多くの一般的な病気などは、この施設だけで診断から治療まで完結させる予定です。
地域の医療により貢献できるように、地域で唯一の医療機関として努力を続けたいと思います。
日本の皆様からお力をお借りしつつ、日本の支援の心を現地に伝え、平和の構築に取り組んでまいります！



バングラデシュの首都ダカでの総合病院建設について、改めて政府機関のチェアマンとミーティングを行いました。トップ自らもしっかりとコミットしてくださり、強力に連携しながら計画を進める事が出来ています。
もちろん大変大きな計画でもあるため、かなりのスピードで進めていても何事にも時間はかかりますが、より良いものとするため、私たちが想像していた以上に政府機関の協力を頂いています。
建設予定地の周辺に住む住民からも、この計画は歓迎されているとのことで、待ち望む声が政府にも届けられているとの事。
現地との連携、信頼を深めつつ、日本の心を体現する、確かな医療を提供する施設となるよう、引き続き努力して参ります。どうぞ皆様、温かなご支援、ご声援、マンスリーサポート等、よろしくお願いいたします！



2025 年 7 月
バングラデシュ首都郊外に建設された FCJ ソラ診療施設は地域のニーズも高く、診療を行ってきました。
しかしながら現状の定期診療だけでは、まだまだ検査機器等も少なく、住民の期待に応え

るためには医療の機能強化を行う必要があります。
診療の幅を増やすため、ここの施設内の検査機器を増やし、さらに人材の強化も行い、常時稼働するためにも看護師さんや検査技師さんなどの人材も充実させていかなければなりません。
まだまだ多くの課題は残されたままではありますが、一歩ずつ確実に機能強化に努め、期待に応え、医療の普及と地域の健康増進に貢献したいと思います。





バングラデシュの首都ダカにて、首都の病院建設につき、再び政府機関とミーティングを重ねています。
NHA（National Housing Authority ）のチェアマンも大変このプロジェクトに期待を持ってくださり、承認までのプロセスは時間がかかるものですが、それを最短にできるよう、積極的に推進してくれています。
この病院は、ユニークな設計だけでなく、地方に建設されたクリニックと一体型のシステム運営の核となる施設であり、この私たちが考えている「病院」と、従来の日本の病院等とは異なる点が多いため、非常に挑戦的なものとなるはずです。
私たちも日本の団体として、このバングラデシュという国の期待に応えるべく、膨大な課題を一つずつ解決し、この夢の実現に向かって進んでいきたいと思います。



2025 年 10 月
バングラデシュの首都郊外、ショラにある診療所での診療を継続しています。今日も多くの住民が来院しており、ニーズの高さを感じています。
近々、検査技師さんをスタッフに迎え、住民の要望に応える新たな診療機器も導入する予定となっており、更なる施設の機能向上を行う予定です。
来院した患者さんからも、我々日本の支援に対して感謝の言葉も頂くこともありました。



この地域の更なる医療の普及に貢献し、日本人が作った施設として知られるだけでなく、しっかりと住民に寄り添い、「日本の医療」の在り方として、より信頼してもらえるように努力を重ねてまいります。
日本の皆様には、下記マンスリーサポーターのご協力等、どうか温かなご支援をよろしくお願いいたします！



今月のバングラデシュでの活動には、私たち FutureCode の学生部 BYCS の 2 名も同行しており、研修も兼ねて、首都ダカ　ミルプール地区のスラムを含めた街の調査も行っています。
街の再開発に伴い道路が拡張され、スラムの一部も壊され縮小していますが、その反面近隣の土地や、また首都南部への移動が起こっています。
また医療問題として、データは限定的ではありますが、母子の健康には大きな問題を抱えており、やはり妊産婦の医療へのアクセス率（30%から 40%未満ほどか）は低く、衛生環境の悪さも一因となり、乳児死亡率も通常の 2 倍。
また子どもたちの必要なワクチン接種率も 65%前後と、前回の我々の調査時と比べて僅かに改善はしているものの、依然問題は残っています。



私たちも同地域に病院建設のプロジェクトを進めている中で、地域の健康をより向上させ、日本の支援を生かし、子どもたちの命を守れる効果的なプログラムを提供するべく努力して参ります。



バングラデシュの首都ダカで、数年間に渡り政府と協議を重ねてきた病院建設のプロジェクトですが、政府の協力のもと、数ヶ月前に建設予定地が決定されました。そこで今回、一部計画が一般公開されることとなり、首都のミルプール地区の予定地に病院施設建設予定のフラッグを立てる事になりました。「日本の丁寧な医療の在り方」をベースとしながら、大病院、という感じの大きなものを目指すのではなく、首都郊外の医療にとっても役に立つ、機能的な施設の集まりの複合施設となる予定です。この計画をスタートしてからコロナ禍を挟んで９年目となり、とても長い道のりではありますが、ようやくこれから具体的な建設計画に移る予定です。この施設は将来的にバングラデシュに貢献するのみならず、様々な世界の医療支援の拠点としても機能できると考えています。



まだ土地の手続きとしても細かな調整は必要ではあり、また病院の機能としても、逆に一般よりもシンプル化した部分と、先進的なアイデアを盛り込んだ部分も混在しているため、設計をはじめ前例もないため更に時間を要する事は予想されます。
しかしながら、じっくりと困難に向き合い、日本の医療の力を体現し、この施設の実現に夢を持って歩みを進めていきたいと思います。

2025 年 11 月



バングラデシュの首都郊外の診療所の機能強化を行いました！ラボの増設を行い、血液検査、尿検査、培養検査、超音波検査診断などなどに加えて、麻酔器も準備され、簡単な手術なども可能となりました。この診療所で多くの病気の診断と治療までを低額で診療可能となり、入院患者さんに対しても機能が大幅に改善されています。ここまでの機能を持つ医療施設は今までこの地域には存在しない環境だったため、住民の方々も大変喜んでくださり、連日多くの方々が訪れ、入院が必要な患者さんも見つかり増えています。私たちの想定を超えたニーズがあり、夜間も開院してほしいとの要望もあり、今後検討しなければなりません。確かな医療を提供し、地域に貢献する日本人が作った施設としてしっかりと活動していきたいと思います。

2025 年 12 月



バングラデシュのショラ診療所を中心としたコミュニティ形成と共に、18350 坪の土地での大規模な農業プロジェクトも始動しました。
この農業チームは女性を中心として構成され、彼女たちが農業の主権を対等に持ち、社会進出の促進を後押しするものであり、バングラデシュでも初の試みと言えるものです。
農業を力強く推進しつつ、雇用創出を進め、貧困の連鎖を断つためにもこのショラの地で病院を中心としたコミュニティを形成して参ります。



バングラデシュの首都郊外、ショラの診療所にて診療が続けられています。外来の患者さんも何人も来院される中で、入院での治療が必要な患者さんも連日数人ずつおり、スタッフも夜間の対応をできる限り行っています。検査機器も充実させた事も大きく、患者さんも首都まで行く必要がなくここで治療まで完結できる価値は大きい事を実感しています。
来院した患者さんからも「あなたたちが末長く健康である事を願っています。ここで診療を続けて欲しい」との言葉も頂きました。
私たちもこの地域で住民の健康を守り、貢献を続けていきたいと思います。



バングラデシュの私たちの診療所のあるショラ。
その農場で多くの野菜が収穫できたため、日頃お世話になっている、私たちのオフィスのあるビルで働く清掃スタッフの皆さんへおすそわけをしました。その中の一人、サフィアさんは 5 人家族（夫・本人・長男・長男の妻・次男）。夫はガードマンとして働いていましたが、粗末な食事が原因で体調を崩し、今は家で療養中。



代わりにサフィアさんが、月給 12000 円の清掃の仕事で家計を支えています。次男（13 歳ほど）は、朝に働いてから学校へ通っています。サフィアさんは、「どうしようもないのよ。貧しい環境に生まれたのだから。」 と静かに話してくれました。
ショラの野菜は、収入が限られる家庭にとって“安心”や“ささやかな喜び”を届ける力があります。
地域の方々から暮らしの現状を伺うことで、私たちは 本当に必要とされる、この病院づくりの根っこを教えていただいています。これからも地域に寄り添い、必要とされる医療を丁寧に育てていきたいと思います。



いつも支えてくださる皆さまに、心より感謝申し上げます。（現地スタッフレポート）



バングラデシュの首都ダッカから、車で 2 時間ほどにあるショラ地域では、医療を受けるために、車で片道 60 分もかかる病院まで通っている人が多くいます。経済的に余裕のある人は私立病院へ、そうでない人は政府の病院へ向かうのが現状です。これまでショラには、地域の人々が安心してかかれる「身近な病院」がありませんでした。
先日、地域に住むある男性が、私たちのショラの診療所を訪れました。
この方は生まれてからずっとショラに暮らし、この地域では農業分野のリーダーとして広く知られている方です。
他院で診察を受けていましたが症状は改善せず、近所の人から「日本人たちが作ったあの病院には、海外で学んだ経験を持つなど、有名な医師がいる」と聞き、当院を訪れたそうです。
他院でも症状から、心臓が悪い可能性を指摘されていたとのこと。超音波の検査を行い、今後の当院での治療について、丁寧な説明が行われました。診察後、この男性はこう話してくれました。
「今までショラには、このような病院はありませんでした。このような病院がここにできることは私の夢でした。」さらに、こう続けました。「妻が病気になった時、近くに病院がなく、遠くの病院へ運ぶ途中で妻は亡くなりました。病院へ行くお金があっても、近くに病院がなかったのです。」そして最後に、「この病院の存在を、もっと多くの人に伝えたい」と話してくれました。



日本の皆さまのご支援によって生まれたこのショラ診療所は、ショラの人々にとっての「身近な病院」となり、確かにこの地に根付き始めています。
確かな医療を、医療の届かない場所に届けるというこの仕事の意味を改めて心に刻み、日本の皆様のご支援のお気持ちを、現場に還元して参ります。



2026 年 1 月
バングラデシュの首都郊外、ショラ診療所では、連日多くの住民が来院しています。
血液検査をはじめ、一般的な検査はこの診療所で実施する事が可能であり、地域では唯一の医療機関です。中には約 20km(車で約 1 時間)離れた地域から来院した患者もおり、この診療所が「身近に医療がない人々」にとって重要な医療拠点になりつつあることを実感しています。現在、特に多い疾患は糖尿病やウイルス性の感染症、心疾患など。また先日は、ひざの中の大切な靭帯の手術後に脚が腫れた農業従事者の患者も来院しました。
治療後のフォローを受けられない人が多い現状も地域の課題です。
治療費についても今月は試験的ではありますが、一般的な首都での治療費からすれば 30-40%割引の価格で診療を行って

います。
これは収入の地域の格差もあるため、来院する患者の経済状況や、「実際に支払える金額」を丁寧に把握しながら、無理のない・続けられる医療費設定とするためです。特に多い糖尿病の診断に関しては、現在検査は無料で実施しており、これは地域での早期発見や、また健康に対する意識の向上なども目指していく予定です。
私たちの課題であった検査と医療スタッフの強化も行われたため、夜間の診療と検査も可能となりました。
地域の要望にしっかりと応え、住民から信頼される施設であり続けられるよう、努力していきたいと思います。



バングラデシュでは、近年ではストレスなどで自殺を試みる人が若者を中心に増えており、1 日あたり約 40 名が亡くなります。
特に農村部では、農薬が手に入りやすく、服毒による自殺が多くなります。
危険な農薬の規制・禁止により状況は少しずつ改善されつつあるものの、現場では救急対応が必要なケースが後を絶ちません。首都郊外にある、私たちの診療所でも、農薬を飲んで運ばれてくる患者への初期対応が重要な課題。
そこで、この診療所では、服毒の治療と処置に必要な物品を揃え、その他の交通事故をはじめ、救命救急にも広く対応する処置室の運用を開始しました！病院の前を通りすがる住民も、気軽に私たちに話しかけてくれる現在。「困ったら立ち寄れる場所」
そんな存在でもありたい。これからも現場のリアルをお伝えしていきます。





2026 年 2 月
首都ダッカのアジンプールにて出張診療を実施し、近隣で暮らす家事使用人、ガードマン、イスラム学校の生徒さんなど、1 歳前後から 80 歳くらいまでの約 80 名の方々に対し、診察料を無料にして診察を行いました。
この地域では、身近に受診できる医師/病院がそもそも少ない事や、また経済的な貧困により、医療を受ける機会そのものが限られている人々が多く、医療は遠い存在です。
今回の企画は、地域で社会奉仕活動を行っている地元団体からの依頼と協力により、実施されました。
バングラデシュの一般的な病院・診療所では、医師の診察料は通常約 750〜1250 円かかると言われています（750 円以下はほとんどないそうです）。今回はこの診察料が無料になることで、患者さんたちはその分の費用を、薬代や検査代に回すことができるようになりました。バングラデシュでは、過去にヨウ素欠乏が広く見られた歴史があり、国の対策により重度の甲状腺の病気は減少しました。
しかし現在でも、一部の地域や集団ではその影響から甲状腺疾患が比較的多い傾向があります。今回の診察でも、甲状腺の検査が必要と思われる患者さんが多く見られました。



この出張診療所の近隣に、この検査を行える病院があり、今回その病院と連携し、甲状腺機能検査代を 380 円ほどに減額しています。
それでも、この検査費用が生活の負担になってしまう方には、相当な待ち時間がありますが、この会場近くの政府の病院で、無料検査を受ける事も可能です。検査結果についても、それぞれのスマートフォンに結果の写真を送ってもらうことで、こちらでも内容を確認し、その後の治療につなげます。スマートフォンを持っていない、読み書きができない、という方にも、今回この出張診療を依頼してくださった現地団体が個別にサポートし、対応しました。さまざまな理由で医療が遠くなってしまっている患者さんたちに対し、同じ地域で暮らし、日常的に地域を支えている人々とつながりながら、診療を「その場限り」で終わらせず、必要な



治療につなげます。これがより良い暮らしへと続いていくことを目指して、一人ひとりの経済状況も考慮した道を作っています。このような経験は私たちにとっても、さまざまな生活環境にあるすべての人が、必要な医療を、必要な時に受けられる仕組み、これを備えた病院を創っていくための大切な土台になります。これからも、現場での学びを「すべての人のための病院づくり」に生かしていきたいと思います。

2026 年 3 月



バングラデシュの首都郊外の診療所近くの孤児院（マドラサ:イスラム神学校）には、支援として私たちの農場から食事を提供することで栄養を支えつつ、先生の雇用も行っています。
現在、断食月（ラマダン）の中で日没後の食事会（イフタール）に呼んでもらったので、視察も行いました。皆、健康で過ごせているようです。
またここの孤児院では衛生の改善にも取り組み、トイレの建設なども行っています。
地域への私たち医療機関からの貢献として、子どもたちの健康もサポートしつつ、今後も定期的に健診なども行っていきたいと思います。





バングラデシュ首都郊外のショラ診療所では、夜間も含めて、できる限りの患者さんの受け入れ体制を作って診療を行っています。
もちろん病気や怪我の度合いによっては、施設として限界もあるのですが、この地域での唯一の診療所であるため、住民も何かあれば、まずここに運んでくる、という状況です。



それゆえに医療スタッフも泊まり込みでの勤務形態になるので、各曜日にチームを分けて対応しています。
現在は診療所の向かい側に、小さな薬局を新たに建設しており、より幅広く疾患にも対応できるよう、また患者さんの利便性を高めるためにも、施設全体としての機能の改善を続けています。
開院から先日、一年が過ぎましたが、その短い期間で地域からこれだけの信頼を頂いている事はありがたい事です。
朝からも、必ず何人かの患者さんは診療所のオープンを待ってくれていますし、よりこの地域医療の中で信頼される施設となるよう、一歩ずつ進んでいきたいと思います。



バングラデシュ首都郊外、診療所のあるショラの農場ではナス、トマトなどが収穫をむかえています。働いている女性たちの農業での仕事は丁寧さがあり素晴らしく、豊作になっています。この写真のナスの種類は長ナスで、日本にもいくつかの品種がありますが、食材としての評価が高く、バングラデシュでは普通のナスよりも少し高い値段で取引されているそうです。



さっそく採れたてが出荷されました。そのほか現在水田では稲が植えられましたが、この水の質にもずいぶんとこだわっています。この広大な農場では、今までの経験だけに頼らず、どの作物に対しても、より良いものを作ろうと作物の最新の知見を学びながら、少しの工夫や努力が重ねられています。この農場で、女性の雇用を促進し、皆で力を合わせて丁寧に作られた作物が、この地域を少しずつ豊かに変えていく。そして誰しもが、必要時に医療を受けることができる環境を目指す。これからも地域の皆と共に取り組んでいきます。



バングラデシュの首都郊外にある、ショラ診療所のそばに、小さな薬局を建設中です！今までよりも、提供できる薬の種類を増やせるため、この場で多くの病気の治療ができるようになります。
患者さんにとっても、薬局ができればこの診療所の利用がより便利になるはず。
これからもこの地域の医療に貢献するため、施設全体としての機能改善に取り組みます！



バングラデシュではラマダン（断食月）がまもなく終わり、その後のお祭りの休暇が始まっています。
首都郊外のショラの農場では、今回はトマトの収穫を迎えています。トマトは特に、大変おいしいと品質も好評いただいております。
その他、今回進められている第二期の施設建設として、薬局の建設が進んでいます。また牧場エリアではアヒルたちの小屋が増設され、ここでの繁殖なども始まる予定です。
バングラデシュでは中東地域での紛争の影響により、一時期は国に備蓄量の少ないガソリンに購入制限がかけられ事実上、ガソリンの入手が困難となりました。
車が使えないため、農場からの農作物の出荷ができず、クリニックでも医療者の出勤もできず、やむなく休業するしかない状況でしたが、ようやくガソリンの購入制限が解除されたため、診療所も再開し、状況は少し改善されつつあります。
様々な困難に直面する現場ではありますが、一歩ずつ確実に前進していきたいと思います。



バングラデシュの首都郊外にある私たちのショラの農場では、今度は玉ねぎが収穫の時期を迎えました。女性たちが一つ一つ、手作業で集め、出荷の用意をしています。
玉ねぎはバングラデシュではもっともポピュラーな野菜であり、ほとんどの料理に使われる、なくてはならない食材です。この農場では、たくさんの女性たちが働いており、農産物は重要な収入源。貧困の問題を解決するための鍵ともなります。彼女たちの仕事ぶりもとても丁寧で、しっかりと抜かりなく準備が進んでいきます。
私たちも彼女たちと共に、この地域をより豊かにし、町の発展に貢献していきたいと思います。

Burkina Faso



2025 年 5 月
西アフリカのブルキナファソで、2025 年も農業での食糧危機対策を開始するため、女性たちがミーティングを開始しています。
昨年と同様に、今年もシングルマザーの方々を中心にチームを作ります。昨年は結果として 10 トンを超える収穫があり、大変有益なものとなりました。今年も期待は高まりますが、土壌を維持するため、作物を昨年と変えてローテーションさせる必要があるため、今回は健康にも多くの長所もある作物であるレッドソルガム（きびの一種類）を中心に作る事にしました。天候に恵まれ、良い結果を迎えられる事を皆で願います。
日本からも私たちも引き続き、適切に支援を行いつつ、この長い食糧危機を乗り越えていきたいと思います。



2025 年 6 月
西アフリカのブルキナファソでは今年の農業の開始のための準備が進められています。今年も例年と同じ約 6 ヘクタールの土地を掃除しつつ燃やし、耕していきます。

国内の北部ではテロなどの危険も大きく、多くの国内避難民が発生しており、南側の私たちの活動地でも受け入れが続いています。そのため今年のスタッフも、現地のシングルマザーの方々を中心に雇用しています。昨年は 10 トンを超える大きな収穫があり、今年も住民からの期待に可能な限り応えられるよう、私たちも支援を続けていきたいと思います。



2025 年 7 月
西アフリカのブルキナファソでの農業プロジェクトは種植えまでの工程を今年も無事に終わらせることが出来ました。
今年は土地の肥沃度を維持するための転作を行い、きびの一種であるレッドソルガムを中心に作っています。
西アフリカの暑い気温の中ですが、皆で力を合わせて耕し、除草も行いました。
後は、雨のタイミングです。昨年のようにうまく豊作となるように祈ります。
世界で紛争が多発する中、避難民も増えており、この食糧難の改善に少しでも貢献できるよう、私たちもできるだけの行動をしていきたいと思います。



2025 年 8 月
西アフリカ ブルキナファソでの農業プロジェクト続報です。今年は当初は厳しい気候のために苦しいスタートでしたが、現在雨も降り始め、希望が持てるまで作物（きび）が育ってきました！
現地でも大人も子どもも皆が協力しあい、その努力もありここまで進んでこられました。
このまま無事に収穫できる事を祈りつつ、大切に育てていきます。

2025 年 10 月
西アフリカのブルキナファソから、嬉しい農業プロジェクトの報告がありました！
今年は当初は雨が少なく、不作になる懸念もありましたが、そこからは順調に作物は育っており、とうもろこし、大豆、インゲン豆、レッドソルガムなど合わせて、昨年の 10.5 トンを超えて 15 トン前後の収穫が見込まれるとの事です！
現地の努力があり、運にも味方され、今までの最高記録となりそうです。
もうすぐいよいよ収穫となります。
収穫されたこれらの穀物は、現地の学校の子どもたちの給食などにも提供される予定です。
4 年前では年間 3 トンほどしか収穫はありませんでしたが、日本の皆様のご支援により継続していく中で、今年は生産量を当初の約 5 倍まで引き上げることが出来そうです。
これからも、より良い、人が助け合う世界を目指して活動を続けてまいります。





2025 年 11 月
西アフリカのブルキナファソから今年の農業プロジェクトの報告です！なんと今年は過去最高記録、合計約 17 トンの収穫がありました！
トウモロコシが 6.75 トン、豆類 3 トン、赤きび 5 トン、大豆 1.5 トンなどなど、農業プロジェクト開始から 4 年目ですが、最高の豊作の結果です。
食糧難が何年も続く厳しい環境の中で、これほど嬉しい事はなく、女性たちも歌と踊りでこの収穫を祝っています。



日本の皆様からの支援で始まったこの農業、そして毎年のこのプロジェクトの予算は同じ額で増やしていないのですが、現地の弛まぬ努力があり、ここまで来る事が出来ました。
女性たちの歌と踊りの中で、日本への感謝が歌われました。
昨年は収穫量 10 トンを超え、素晴らしい結果でしたが、今年はそれを遥かに超えて

います。
もちろん、天候に左右されるものですので、努力だけで毎年豊作にできるわけではありません。
しかしながら、少なくとも開始した 4 年前は、これほどの収穫がこの土地で望める事は予想していませんでした。この収穫は、まさに現地の命を繋ぐものです。



2025 年 12 月
西アフリカのブルキナファソで運営している幼児院では、今年も農業プロジェクトが成功したため、採れた収穫から、毎日の給食が提供されています。
幼児院ではこの給食を例年行って来ましたが、これは食糧難がある中でも子どもたちの栄養状態を維持し、命を守るため、そして極度の貧困がある地域家庭の食費負担の軽減に貢献するものです。



幼児院の先生たちも、子どもたちの教育係として、日々奮闘してくれています。
決してこの厳しい現状が改善されているわけではありません。しかしながら子どもたちは元気に、そして友達と遊びながら笑顔で過ごしている姿を見て、私たちもこの活動への気持ちを新たにできています。
日本の皆様のご支援により、農業プロジェクトが機能し、そしてこの幼児院での子どもたちの健康維持に繋がっています。



Japan

フェニックス神戸ゾンタクラブさまの例会にて、代表の大類が講演をさせていただきました。今回の講演では、私たちの活動に加えて、各国における現状や、歴史的にも様々な問題があり、極度の貧困が生まれた経緯などについても語られました。
講演後にも多くのご質問を頂き、参加者の皆様と個々にも深く話し合うことができ、私たちにとっても有意義な時間となりました。皆様のご支援のお気持ち、お力をお借りしつつ、現地へしっかりと還元し、より効果的な活動を続けて参ります。
2025 年 6 月
兵庫医科大学四年生の医療入門講義として、代表の大類が国際保健、途上国での医療支援の現場についての授業を行いました。



私たちの活動の紹介だけでなく、世界の医療の状況や、国際機関のプログラムなどの現状と目標についても幅広く紹介しています。
また、今の時代は新たな戦争が起こり、国際機関の機能も抑制され、国際支援活動自体が世界的にも大変困難な状態にあります。
講義後にも、数人の学生さんが来られ、国際保健、公衆衛生学に興味が持てたとのことで、質問もあり、将来のキャリアを考える意味でも、またより深く話を聞きたいと言っていただきました。
医師を目指す医学生の皆様にとって、私たちの人道支援活動の今回の講義が、何かのきっかけとなったのであれば嬉しく思います。



2025 年 8 月
先日山形、寒河江ロータリークラブ様の例会にて、代表の大類が講演で登壇させていただきました。
いつもながらの最新の活動報告に加えて、人道支援とはなにか。平和構築とはなにか。そしてそこに深く関わる未来の施設として、バングラデシュ首都での病院建設について、より深く話をさせていただきました。必ずや日本の医療、そして日本の人道

支援を体現する施設となるはずです。



講演後にも多くの方に激励のお言葉、そしてマンスリーサポートへのご入会の表明をいただきました。またハダニシア ハンドクリームや書籍「パンゲアの鍵」のご購入も合わせ、心から感謝しております。
皆様のこのようなご支援、ご声援のおかげで私たちも活動を継続し、人命救助、国際社会への貢献を続ける事が可能となります。
今の混沌とした世界であるからこそ、日本人として平和を創る具体的な人道支援の行動を続け、これからも努力したいと思います。
これからもどうぞよろしくお願いいたします！



私たち Future Code の顧問をつとめていただいております医師のシスター須藤先生に活動報告を行い、現在の世界情勢についても話をしました。
平和というものを考え、願われるお気持ちは強く、特にハイチに関しては、残念ながら現状として治安の悪化が著しく、ほとんどの支援団体は撤退しており、さらに世界で起こっている紛争の影響を受け食糧難が続いています。
私たちも何年にも渡りハイチの孤児院への食糧支援の継続を行ってきましたが、世界の情勢も混沌とする中、様々な支援要請が多発しており、すでに予算も限界の状況にあります。
生まれながらに過酷な運命にある人を救えるのも、また人でしかなく、シスター須藤先生の著書「ハイチ 復興への祈り」にも書かれた「希望がないからこそ、希望を持つしかないのです」という言葉の意味を噛みしめながら、たとえわずかでも現地の希望になれるよう、努力を続けたいと思います。



8 月 29 日にトークライブ「I THINK vol.2」が開催されました。ご来場くださった皆様、本当にありがとうございました。
今回はゲストにイラストレーター•ソラミミスト安齋肇さん、神戸市議会議員いさやま大介さんをお迎えし、世界の情勢や政治、また日本、神戸の話、生活の変化の話など、話題も多種多様となりました。
安齋さんにしか聞けない話もあり、盛況いただきました。
ご来場の皆様には、楽しんでいただけましたら幸いです。また大類からも、私たちの仕事の現場の事情や、世界との関係、アフリカの現状などの説明もあり、知っていただける機会となりましたなら嬉しく思います。

2025 年 9 月



9 月 11 日に開催されました「ほぼ医師のための人生設計勉強会」に代表の大類が登壇させて頂きました！約 70 名近い皆様の参加を頂き、またたくさんのコメントや、ハダニシア ハンドクリームの購入も含め、大きな反響を頂き、感謝します！
今回は、大類が医師としての生き方の一例として、私たち Future Code の活動を紹介しつつ、国際協力、国際保健の道に進んだ経緯などが語られました。
その他の登壇者の医師の皆様も、大変ご活躍の方々ばかりでしたので、聞き応えのある会だったと思います。
ご参加くださった方々にとって、少しでも私どもの話を聞いて良かったと思っていただけたなら幸いです。



主催の病院マーケティングサミット JAPAN 様にもこの機会を頂けましたこと、感謝いたします。

2025 年 10 月

ハイチのローラン・サンーシル暫定大統領 評議会議長が来日され、大阪関西万博でナショナ

ルデーイベントと午餐会が開催されました。日本の国際支援団体として、FutureCode 代表の大類が日本代表団の一員として招聘を受け、参加させていただきました。
会の中では暫定大統領とハイチ代表団からも、日本との信頼と平和への願い、そしてこの万博にハイチが出展している事は日本に対する感謝と、ハイチのプライドでもあった事などが述べられました。
また大類もスピーチの機会を頂きまして、これまでの活動とこれからの支援活動の継続、そして人が人と助け合う、普遍的な人道支援としての価値を、今の時代だからこそより大切にしたいという活動への想いが語られました。
ハイチは治安の悪化もあり、貧困の中、食糧もなく大変厳しい状況が続いています。しかし私たちも、今回も子どもたちの命を守る活動を続ける意味を再確認し、これからも努力を重ねたいと思います。



尾道市 医師会看護専門学校にて、FutureCode バングラデシュ支部マネージャーのラーマン真理子 看護師が「バングラデシュでの国際看護活動の実際」について講義を行いました。
30 名の看護学生に向けて、日本とバングラデシュの医療の違いや課題、そして現場での活動の取り組みを紹介しました。
私たちの目指す理想は、すべての人に、すべての場所で、すべての医療を届けること。講義の中では、私たちの活動の結果の例として、1 人の現地の看護師さんのケースを紹介。看護師不足の中で、十分な教育を受けられないまま働いていた医療関連スタッフのシルピさんは、バングラデシュの現場のニーズから Future Code の活動として始めた看護師教育プロジェクトで、学ぶ機会を得て、働きながら看護師資格を取りました。
彼女は今、誇りと思いやりを持って患者と向き合っています。この姿を通して、教育が人を変え、医療を変え、未来を変えるのだということを学生さんたちに伝えました。



2025 年 11 月
豊中市立刀根山小学校にて、六年生を対象に、「国際協力とは、相互扶助の世界を目指して」としての講演（特別授業）を行い、代表 大類と事務局長 鳴瀧が登壇いたしました。
この小学生の皆さんは、数ヶ月に渡って世界の社会課題を考える授業を受けており、非常に集中して話を聞いてくれました。
授業の内容としては、極度の貧困の起こる原因を考えることや、10 歳の同い年の子が西アフリカで生活している場合、どんな生活なのかを想像してもらったりするものです。その生活の中で、貧困の連鎖を断ち切るために、世界でどんな取り組みが行われているのかを紹介しました。この特別授業の終わりにも、何人もが手をあげて、大変多くの質問をしてくれました。その質問も、SDGs と関連して考えられたものなど、質の高い質問が多く、私たちも小学生の皆さんの学びと思考力に驚かされました。
この話を聞いたことが、皆さんの将来に少しでも役立つものとなったのなら大変私たちも嬉しく思います。私たちも子どもたちにとっても魅力ある活動を続けていけるよう、努力していきたいと思います



東京上野ロータリークラブ様の例会で、代表の大類が講演を行いました。今回は極度の貧困の現状とその克服に向けた認定 NPO 法人 Future Code の活動が報告されました。
極度の貧困とは、1 日 2.15 ドル以下で生活する人々を指し、教育・医療・食糧の欠如など、出生地による「運」に左右される社会構造的な問題であります。個人の努力だけでは脱却が難しく、世代を超えて続く「貧困の連鎖」が生じています。
Future Code は、バングラデシュで医療者育成や診療所設立、総合病院建設計画を進め、保健制度の創設の提案など、貧困層にも医療を届ける仕組みを構築しています。
ブルキナファソではマラリア対策・衛生改善・食糧支援・農業支援・シアバターのソーシャルビジネスを展開し、現地雇用を生み出しています。
ハイチでは治安悪化の中でも孤児院の食糧支援を継続していることも紹介されました。
国際協力とは「貧困の連鎖を断ち切り、構造的暴力をなくす平和創造の行為」であるとし、単なる支援の意味にとどまら



ず、具体的な平和を生み出す手段です。
現在も約 8 億人が極度の貧困下にありますが、過去の 20 億人から減少した事実は希望であり、継続的努力により撲滅は可能と語られました。
過去からの統計的には、発展していない国は存在せず、そう遠くない将来には「支援が投資となり、支援先がパートナーとなる時代」が来ると展望。
私たちの活動に終わりはなく、継続そのものが目的であり、日本から世界平和に貢献する団体であれるよう、努力を続けて参ります。日本の皆様には引き続き、温かなご支援、ご声援をよろしくお願いいたします！



病院マーケティングサミット JAPAN2025 総会に参加し、代表の大類がパネリストとして登壇、また学生部 BYCS もハダニシア ハンドクリーム販売ブースを出展させて頂きました。
この病院マーケティングサミットは病院が、医療の枠にとどまらず、社会や地域、そしてさまざまな業界の人々とつながりながら、創造的で開かれた場へと進化するための取り組みを行い、全国から多くの医療関係者が集まるものです。



また大類が登壇したステージには、ボーダレスな表現で、あらゆる壁や境界線を超越した世界感のエンターテイメントを創る SOME≡LINEZ（サムライン）が登場。圧巻のパフォーマンスを見せてくれていました。
日本全国から、地域医療に真剣に取り組む多くの病院の、新たな取り組みが紹介され、本当に大盛況の会でありました。
私たちのバングラデシュの病院プロジェクトや、ハダニシア ハンドクリームの目指す支援の形にも多くの方に興味を持って頂きまして、大変嬉しく思います。



大分杵築市で開催されましたインターシティーミーティングの基調講演として、代表の大類が登壇させていただきました。
途上国での支援活動を紹介しつつ、活動の目的として平和を願うだけではなく、いかに平和を創り出すのか、という事についても触れており、人と人が助け合う意味を考えて「行動」している事などを話しています。
またその後には若者を交えて、講演内容からパネルディスカッションも開催され、そのアドバイザーも務めさせていただきました。
その中で、複数名のパネリストからも、この講演を聞いて少しでも自分にできる「行動」を起こしていきたい、との感想もいただき、私たちも大変嬉しく感じております。

2026 年 1 月



沖縄首里ロータリークラブ オープン例会にて、代表の大類が活動報告講演を行いました！今回は、ロータリーの会員ではない皆様も参加いただける講演会でもあり、私たち FutureCode の活動と、ロータリークラブの皆さんとの今までの連携なども含めての内容です。特に昨年に、バングラデシュに来てくださった方も参加して頂いたので、今後の活動の目標なども語られました。
また 2024 年に沖縄 久高島の診療所に寄贈した、緊急搬送車の使用状況や、島民の皆様の安心につながっていることなど、島医者の鈴木先生より話をしていただきました。
社会貢献として活動する意義を参加してくださった皆様と共にしっかりと感じ、また次の行動へとつながっていく糧となったように思います。
これからも更なる行動を重ね、平和の構築のために努力いたします。
千葉県で開催されました、ロータリー第 2790 地区の国際奉仕セミナーにて、代表の大類が講師として登壇させていただ



きました！
千葉に講演で呼んで頂いたのは初でもあり、これまでの私たちの活動の紹介と、また希望のある未来と平和を創っていくために、どうしても実現したいバングラデシュでのプロジェクトの内容が語られました。講演後は、多くの方から大変大きな反響を頂きました。「感動した」「協力したい」とのお申し出も多数あり、心より感謝しております。
私たちが日常を生きていく中で、人道支援の意味を考える機会は少ないのかも知れません。
しかし、人が人を助ける行動なしに平和は実現せず、社会構造的暴力を取り除く事もできません。
私たちも日本発の支援団体として、微力であったとしても地球規模での発展に貢献するため、行動を続けます。

2026 年 2 月



福岡県朝倉市で開催され、250 名の方が参加された国際ロータリー第 2700 地区第 6 グループのインターシティーミーティングに、代表の大類が基調講演として登壇しました！
今回の講演では、これまでの活動の紹介に加え、なぜこの活動を続けるのか、という行動の原点に触れ、今までに活動の中で起こった実際のエピソードや、志半ばで亡くなってしまった、仲間たちの想いを受け継いでいく事の意味などが語られました。
そして未来に平和を創り出していくため、具体例を示しつつ、皆で共にその世界を目指したい、と呼びかけたところ、会場から大きな拍手が起こり、私たちも大変大きな勇気をもらいました。
講演後にも「本当に涙が出た」「心が震え、感動した」との感想を多数頂き、これ以上ない一体感の中で終える事ができました。
心より感謝申し上げます。
私たちも、更に効果的かつ日本の心を体現する世界の平和構築に向けて、努力を重ねて参ります。



千葉県松戸市で開催されました、国際ロータリー第 2790 地区インターシティーミーティングの基調講演に、代表の大類が登壇しました。「今こそ国際奉仕を考えよう」という趣旨のイベントであり、約 150 名の方が参加されました。
今回は活動の紹介に加えて、今まで現場で実際に起こったエピソードがいくつか紹介され、仲間の遺志を継いでいく事の意味、前に進み続ける理由が語られました。平和構築とは、食糧がない、教育を受けられない、医療を受けられない、といった状況を改善する事でもあります。
つまり構造的暴力を排除することは平和構築であり、その点においては、平和は願うものではなく、創り出すものであります。厳しい現実で生きてきた、私たちの知る人々は、その中でも本当の平和を願い、実現させるため懸命に努力してきた事を我々は知っています。志半ばで亡くなった方も何人もおり、その遺志を継いでいく事も、私たちの活動を前に進める理由の一つでもあります。

2026 年 3 月



3 月 21 日、日本全国と台湾から約 60 名のロータリーの皆様が神戸に集まり、「認定 NPO 法人 FutureCode を応援する会（仮称）」が開催されました。
代表の大類からは、世界には武力が支配し、矛盾が多い現実の中でも、日本人として人道支援を続けていく意味などが語られました。
お集まりくださった皆様からも、多くの激励のお言葉をいただき、また何人もの方が私たちと共に進んでくださる意思を表明してくださり、私たちも大変大きな勇気をいただきました。この日、この会は、私たちにとっても一つの節目となったように感じています。



この会はこれからも継続、拡大していくことをご提案いただき、心より感謝申し上げます。
私たちはそのお気持ちと共に、力強い日本の平和への意志として、今後も人道支援の道を邁進して参ります。

神戸にお集まりいただき、最高に盛り上げてくださり、感謝申し上げます。



沖縄の南城市で開催されました若者を対象にしたリーダーシップ研修「TYLS（沖縄首里ロータリークラブ主催)」に、代表の大類が講師として登壇いたしました。
中学生、高校生含めて 30 名ほどが参加されており、今回は国際協力をテーマに、私たちの活動紹介に加え、リーダーシップとはどういうものか、如何に精度高く情報を集め、クリティカルシンキングにより考察するのかなども事例を紹介。その先にある望ましい未来への想像力の重要性を解説します。
また講義を聞くだけではなく、ワークショップとして、なぜこれらの習慣が大切なのかを実際に体験してもらいました。
未来ある若い皆さんにとって、少しでも有意義な経験であったのであれば幸いですし、次代を担うみなさんの活躍に期待しております。

Media



2025 年 5 月
5 月 28 日発売の神戸明石のカルチャー誌 THE TANPENS（タンペンズ）の巻頭特集で、代表の大類を掲載していただきました！神戸、関西から、国際支援団体 Future Code として国際支援を発信し行動していく、そしてそれを続けていく意味について語ります。その他にも、読み応えのある記事がたくさん掲載された雑誌となっておりますので、ご興味ある方はぜひご覧ください！
Amazon でもご購入いただけます。

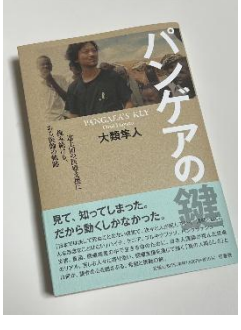
2025 年 8 月
先日、山形の寒河江で行われました代表 大類の講演が 8 月 11 日の山形新聞に掲載されました。記事にも書いていただきましたように、私たちのこれまでの経験からも、多くの人の協力があれば、確かな支援によって世界で小さな平和を作り出す事は可能であり、それをさらに育てていく事ができます。世界中で紛争などが起こる中ではありますが、だからこそ、私たちはこれからも平和を願う日本の国際支援団体として、確かな支援の継続を行い、努力と行動を続けて参ります。





FM MOOV KOBE で収録！放送は明日 26 日 20 時ですー。
29 日開催のトークライブについてがメインでしたが、まあラクに話させてもらいました。
放送聞いてもらったら分かりますが、思いっきり噛みました！しかもラジオで！どうせ噛むならレベル高く。すいません苦笑　ぜひぜひイベントもよろしくお願いします！

2025 年 12 月
代表の大類の著書「パンゲアの鍵」についての記事を沖縄タイムスプラスに掲載いただきました。
Future Card の立ち上げから、この 15 年の活動や経験・困難、そしてこれからの未来について考え、その先にある希望が書かれています。現場から学ぶ人間らしさとは何なのか。世界中で色々なことが起き、日本では考えられないような事態にも幾度も遭遇しながら、それに時には打ちのめさ



れ、しかしそこから何度も再起して乗り越えていく。夜も昼もなく、ただ目的に向かって進み続け、目まぐるしく変化する日々。
その多種多様な経験を踏まえ、未来にどのようなことを期待し、また私たちはどのような未来を創り出そうとしているのか。内容的には決して難しい本ではなく、大変読みやすいとご好評もいただいております。



ドラゴンゲート様

2025 年 7 月
ドラゴンゲート ワールド記念ホール大会で代表の大類がスピーチをさせていただきました。
いつも募金してくださるご来場の皆様、そして活動へのご理解とご支援を続けてくださるドラゴンゲートの皆様、本当にありがとうございます。スピーチでは、私たちも神戸発祥の国際医療支援、人道支援団体として、皆様のお力をお借りして、どういった活動を行なっており、何がこれまで出来たのか、そして未来に向けて、世界で平和をさらに創出する活動などが語られました。また、ハンドクリーム「ハダニシア」も会場で販売させていただきました。試合後にも、ご来場の皆様からも大変大きな反響をいただき、支援やたくさんの応援メッセージ、ありがとうございました！これからも神戸、日本の団体として、確かな人道支援活動を続けて参ります。



2025 年 12 月
ドラゴンゲートさまの年内最終戦に 2 日間に渡って参加、リングからご支援いただいているご来場の皆様に、活動報告のスピーチをさせていただきました！今年 1 年間のブルキナファソでの農業の豊作、バングラデシュでの診療所の設立など、重要なプロジェクトが成立したことなどに感謝です。
そしてさすが年内最終戦、多くの方々が来場され、まさに大盛況！募金してくださる方も多く、私たちの活動へのご理解、心より感謝いたします。ハダニシア ハンドクリーム販売ブースも出展させていただき、最終日はまさかの初の完売です。皆様のお気持ちに、改めて私たちも勇気をもらいつつ、2026 年に臨みたいと思います。

2026 年 3 月
サンボーホールの退会で紛争の影響によってバングラデシュではガソリンが購入できず、車が使えないため医療スタッフが出勤できなかったり、農作物の出荷が難しくなったりと影響が大きく出ましたが、現在はなんとかガソリンを確保し、活動再開している旨なども報告させていただきました。
ハンドクリームもお陰様で、現地の雇用を創出するサイクルが続いています。年間を通して、私たち FutureCode が参加できない他府県の試合でもハンドクリームの販売と、募金活動を続けてくださっています。
心より感謝申し上げます。



Future Code 学生部 (2025 年 4 月 - 2026 年 3 月)

Bridge Youth Challenge Smile

支援地との架け橋となり、がむしゃらに挑戦し続け、笑顔を届ける

はじめに・・・Future Code により学生部 BYCS が設立されてから、早くも 9 年が経ちました。この間、私たちは様々な国際協力団体や学生団体、活動家の方々とのつながりを築いてきました。今年度は、そうしたご縁をさらに深め、「みんなで国際平和をつくる社会」の実現を目指して、多様なコラボレーション企画を実施しました。

また、今年度は3名のメンバーがFuture Codeの支援地の一つであるバングラデシュを訪問し、現地研修に参加しました。BYCSは、「支援地との架け橋となり、笑顔を届ける」という理念のもと、国際社会で活躍できる人材を育成する場としての役割も担っています。

2019年より運営・販売を行っている「hadanishea(ハダニシア)ハンドクリーム」は、今年度、累計販売本数1万本を突破しました。売上利益は、Future Codeが実施する医療支援や食糧支援などの活動に活用されています。本製品には西アフリカ・ブルキナファソ産のシアバターを使用しており、その生産過程では現地住民の雇用を創出し、貴重な現金収入の機会を提供しています。

バングラデシュ訪問・研修

2025年10月および12月に実施されたバングラデシュ渡航では、計3名のBYCSメンバーも同行し、Future Codeが展開する医療支援・地域事業の現場を視察しました。今回の渡航では、首都郊外のショラ診察所、首都ダッカに建設予定の総合病院予定地、そして都市部のスラム街を訪問し、現地の医療課題や地域社会の現状について理解を深めました。



(写真：ショラの診察所とその周辺を見学・視察する様子)

イベント主催

2025年11月30日、神戸市中央区の東遊園地において国際協力イベント、『ＫＯＢＥから世界へ　～神戸から広げる国際協力の輪～』を主催しました。BYCSが主催者としてイベントを開催するのは今回が初めての試みでした。神戸で約10年間活動する中で築いてきたつながりを活かし、国際協力に関わる多様な主体が協働する「みんなでつくるイベント」を目指すことで、新たな交流や連携の機会を創出しました。

当日は、国際協力への多様な関わり方を体感していただくため、3つの企画を実施しました。ブース出展や留学生との座談会に加え、神戸を拠点に活躍する3名（神戸市議会議員諫山大介さん、Future Code大類代表、BYCS元代表小池）のスペシャルトークが行われました。



(写真：イベントの様子)

コンペティションへの挑戦

2025年5月17日、病院マーケティングサミットJAPANが主催する「未来共創ドラフト会議」にプレゼンテーターとして参加しました。本企画は、多様な分野で活動する若者が自身のアイデアやプロジェクトを発表し、未来の社会づくりについて考えるイベントです。

当日は、国際協力への想いを行動へ移すことの大切さをテーマに、BYCSの活動内容や今後の展望について発表しました。審査員からは「すぐに何か行動を起こしたいと思った」「学生の熱意が伝わった」といった評価をいただき、活動への理解

と共感を広げる機会となりました。また、他の登壇者との交流を通じて新たな視点や学びを得ることができ、参加メンバーにとって今後の活動への意欲向上にもつながりました。



（写真：プレゼンテーションの様子）

hadanishea 事業

昨年度に引き続き、BYCS は「hadanishea ハンドクリーム」の販売を通じて国際協力の魅力を発信しました。今年度は、組織的な販売戦略の強化に取り組み、結果、昨年度の 2 倍以上の売上を達成しました。2025 年度末時点で 1 万本以上の hadanishea を日本中にお届けしています。

対面販売



BYCS は、国際協力関連イベントをはじめとする様々な催しへ積極的に参加し、商品販売と活動の発信を行っています。今年度は対面販売の機会が大幅に増加し、多くの方々に hadanishea ハンドクリームや BYCS の活動を知っていただく機会となりました。

（写真：ドラゴンゲート様大会での出展の様子）



今年度はイベントごとの特色に合わせたアプローチを整理したマニュアルを作ったり、販売後の振り返りとして商品購入に至らなかった理由を分析したり、一度の販売会でのアウトプットを最大化できるよう努めました。

（写真：One World Festival での出展の様子）

店舗営業関連

今年度は、メールでのご案内や店舗訪問を通じて新たなご縁をいただき、6 店舗で hadanishea ハンドクリームのお取り扱いが開始しました。商談の際には、私たちの活動への想いや商品に込められたストーリーに耳を傾けていただき、各店舗様のご理解とご協力のもと、お取り引きをスタートすることができました。

今年度よりお取り扱いを開始いただいた店舗様は、以下のとおりです。

- 太山寺珈琲焙煎室　様／スペシャルティコーヒー専門店
  - 兵庫県神戸市西区伊川谷町前開 265-1
    https://www.taisanji-coffee-works.jp/shop
- Teacafe Colour　様／カフェ
  - 兵庫県神戸市灘区王子町 1 丁目 2-21
- ワカモノ未来デパート　様／セレクトショップ
  - 兵庫県神戸市東灘区本山中町 4-1-8 医療法人明倫会 宮地病院内 ワカモノ未来デパート
- Cafe&Bar Mi Casa　様／カフェバー（※店舗改修により 2025 年 12 月に取扱中止）
  - 兵庫県神戸市灘区岩屋北町７丁目１−２６

- ROUND POINT CAFE　様／コーヒーショップ・喫茶店
  - 兵庫県神戸市中央区栄町通４丁目 2-7
    https://www.roundpointcafe.com/
- 神戸アジアン食堂バル SALA　様／アジア料理店
  - 兵庫県神戸市中央区元町通２丁目３−１６
    https://kobe-sala.asia

EC（電子商取引）サイト

2025 年 12 月より、Amazon でも hadanishea ハンドクリームをお買い求めいただけるようになりました。Amazon は国内最大級の EC プラットフォームであり、多くの消費者が日常的に利用する販売チャネルです。Amazon での販売開始により、これまで対面販売や店舗販売では商品を届けることが難しかった地域の方々にも、お手軽にご購入いただける環境が整いました。今後も販路の拡大を通じて、より多くの方々に hadanishea の魅力と国際協力への想いを届けていきます。

広報活動　【SNS 活動】

昨年度に引き続き、Instagram と Facebook を用いて、支援者の皆さまや新規のお客様に向けて、BYCS の活動や hadanishea の魅力を発信しております。今年度は、動画の投稿数を増やしたり、オリジナルの絵本を連続投稿で紹介したりと、より多くの人の目に留まるよう工夫しました。

また、現在 hadanishea アカウントでは、いちハンドクリームブランドとしてのブランド力向上を図り、これまでの「学生らしさ」を表に出した投稿は控え、「質の高さ」で認知度を上げられるよう努めています。

運用したアカウントとその内容等は以下の通りです。

- Instagram
  - hadanishea アカウント　hadanisheaInstagram
  - BYCS アカウント　BYCSInstagram
- Facebook
  - BYCS アカウント　BYCSFacebook

【ラッピングリニューアル】



2022 年より BYCS の活動にご協力くださっている、
インフルエンサーの神戸人（Instagram アカウント：@kobejin2018)様より、ラッピングデザインをリニューアルしていただきました。
ロゴの周りにシアの花とリボンをあしらい、ナチュラルかつ上品な印象を演出して下さり、お客様からも多くの好評をいただいています。
（写真：リニューアルデザインのラッピング）

その他の活動

BYCS 研修会

2025 年 4 月 6 日、BYCS メンバーの活動への意欲向上を図り、Future Code から BYCS に向けて研修会をしていただきました。「なぜ活動をするのか？何を得たいと思うのか？」など、行動の原論を考え、私たちの活動をより効果的にするための講演をしてくださりました。
後のアンケートでは、参加したメンバーから「BYCS の活動をもっと面白くしていきたい」、「なぜ自分が国際協力をするのかを改めて考えるきっかけになった」などの回答があり、研修会の効果が見られました。



（写真：研修会の様子）

六甲アイランド基金への応募、新イベント主催企画

神戸市における国際的コミュニティ形成促進を目指す「六甲アイランド基金」へ今年度末に応募し、助成をいただけることが決定しました。現在、そちらの助成を活用し、来年度新しい国際協力イベントを BYCS で主催する企画を試行錯誤して進めています。



おわりに

2025 年度も Future Code 学生部 BYCS の活動を応援して下さり、心より感謝申し上げます。今年度は BYCS の理念にあるように、様々な取り組みに「がむしゃらに挑戦する」ことができました。それもひとえに、皆さまのお力添えのおかげです。

皆さまの温かい支援に支えられ、BYCS は 2026 年 10 月に設立 10 周年を迎えます。Future Code の掲げる「平和を願うのではなく、みんなで創る」未来に貢献し続けられるよう、より一層尽力してまいります。

今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

認定 NPO 法人　Future Code　学生部 BYCS

メンバー一同

○ 代表理事 ご挨拶 ○

拝啓　夏至の候　皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、認定 NPO 法人 Future Code の活動をご理解くださり、またご声援、貴重なご寄附を賜り、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

前年度の活動報告書が完成しました。2024 年度の分と 2 冊お送りいたします。
皆様からお預かりしましたご寄附はハイチ、バングラデシュ、ブルキナファソ、日本の活動のために大切かつ適切に使わせていただきました。食糧支援・医療支援はもちろんですが、ブルキナファソとバングラデシュの現地女性の雇用創出、シアバター事業や農業支援の継続や、首都郊外のクリニック OPEN 等に使わせていただきました。

私たち Future Code の活動は皆様からのご寄附によって支えられております。
何卒、今後とも Future Code のサポーター、応援団として暖かいご支援ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

⁑住所変更などございましたら info@future-code.org　ご連絡お願い致します。
⁑登録いただいているクレジットカードの期限にもご注意いただけると幸いです。

日増しに暑くなり、また梅雨時期にて過ごしにくい日々が続くかと思いますが、どうぞご自愛くださいませ。
略儀ながら書中を持ってお礼とご報告とさせていただきます。

敬具

認定 NPO 法人 FutureCode　代表理事 大類 隼人